

平成二十三年度  
仏教文化研究所活動報告

【第一回 運営委員会】

日時 平成二十三年四月二十一日（木）十二時二十分～十三時十五分

場所 仏教文化研究所共同研究室（六号館二階）

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、  
小林恭治所員、下室竟道所員、宗基秀明所員、星野玲子所員、前田伸子所員、小林馨所員、関根透所員、  
橋本弘道所員

議題

一、審議事項

- ① 鶴見大学仏教文化研究所運営委員会規程について
- ② 仏教文化研究所兼任研究員の採用について
- ③ 平成二十三年度公開シンポジウムについて
- ④ 御移転百年記念パネル展の開催について
- ⑤ 平成二十三年度研究例会の開催について
- ⑥ 生涯学習セミナー（平成二十三年度第二クール）の開講について
- ⑦ 平成二十四年度科研費の申請について

## 二、報告事項

- ①平成二十三年年度決算について
- ②平成二十三年度予算について
- ③平成二十三年度事業計画について
- ④鶴見大学仏教文化研究所専任研究員任用規程の改定について
- ⑤特別展「總持寺名宝 100選」の開催状況について
- ⑥『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十六号の刊行・配布について
- ⑦「中国・海南師範大学南海地域文化研究センターとの学術交流協定」について
- ⑧その他
  - ・歯学部「宗教学Ⅰ・Ⅱ」講義担当について

## 【公開シンポジウム】

日時 平成二十三年六月十一日(土) 十三時三十分～十六時三十分

会場 大学会館地下一階メインホール

テーマ 曹洞宗大本山總持寺御移転百年記念

「公開シンポジウム——御移転の真実を探る」

講師・演題

木村清孝所長「御移転がもたらしたもの」

納富常天顧問「御移転の経緯について」

関根透所員「御移転の真実を語る資料——遷祖式を中心として」

(※公開シンポジウム記録は本紀要に掲載)

## 【第二回 運営委員会】

日時 平成二十三年七月二十一日(木) 十二時二十分～十三時五分

場所 仏教文化研究所共同研究室(六号館二階)

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野眞知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、

小林恭治所員、伊藤正義所員、加藤寛所員、下室寛道所員、宗基秀明所員、星野玲子所員、前田伸子所員

### 議題

#### 一、審議事項

- ① 團野弘之寄贈正法眼蔵写本(フィルム等)の調査と修復について
- ② 科研費申請の準備について
- ③ 『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十七号の原稿募集、編集予定について
- ④ 平成二十三年度仏教文化研究所図書購入の計画について

#### 二、報告事項

- ① 特別展「總持寺名宝 100選」の開催結果について
- ② 平成二十三年度仏教文化研究所公開シンポジウムの結果について
- ③ 「總持寺展」へ向けての進捗状況について
- ④ 生涯学習セミナー(平成二十三年第二クール)「一歩すすんだ仏教入門」の開講について

### 【第三回 運営委員会】

日時 平成二十三年十月二十七日（木）十二時二十分～十三時二十分

場所 仏教文化研究所共同研究室（六号館二階）

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野眞知郎所員、岩橋春樹所員、小林恭治所員、伊藤正義所員、下室覚道所員、宗基秀明所員、星野玲子所員、小林馨所員、関根透所員、橋本弘道所員

#### 議題

##### 一、審議事項

①平成二十四年度仏教文化研究所事業計画について

②平成二十四年度仏教文化研究所予算について

③その他

##### 二、報告事項

①故團野弘之寄贈「正法眼蔵諸写本」（フィルム版）の調査結果について

②生涯学習セミナー「一歩すすんだ仏教入門」の実施状況について

③科研費申請の状況について

④『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十七号編集の進捗状況について

⑤平成二十三年度研究例会の開催について

⑥国際交流の実施状況について

⑦その他

## 【パネル展】

日時 平成二十三年十一月十四日(月)～二十七日(日)

会場 大学会館一階センタープラザ

テーマ 曹洞宗大本山總持寺御移転百年記念

「百年前の總持寺のにぎわい2―御移転百年記念パネル展―」

### 概要

鶴見大学生涯学習センターとの共催により、昨年引き続き「百年前の總持寺のにぎわい2」と題して大学会館においてパネル展を開催した。このたびは、前回のプレパネル展を踏えて、それ以降に新しく蒐集された絵葉書や資料を中心として、以下の三種の盛儀に焦点を合わせ、パネルを作成し、展示を開催した。一、御移転を推進実行された石川素童禪師が入山された遷祖式。二、最初の建物である放光堂等の上棟式。三、御移転を最初に決意された西有穆山禪師の荼毘式。特に一と二については、該当する絵葉書が新収できたのでそれらを使い、三については、西有穆山禪師の生家である笹本家からその模様を撮影した貴重な写真の提供を受けたのでそれらをパネルにした。笹本家の紹介は、八戸の大慈寺住職である吉田隆法老師のお力によるところ大であるが隆法老師からは、西有穆山禪師に関わる貴重な図書までいただいた。あらためて深く感謝を申し上げたい。

このたびのパネル展では、二十五枚のボードを五つのグループに大きく分けて約八十点展示し、中央のスペースには、図書館の協力を得て展示ケースを使い、新収の絵葉書と「これまでに開催された總持展」の図録等を展示した。また展示期間中の十五日(火)と二十六日(土)に関根透研究員が解説を行なった。

このたびは、受付名簿や展示リストの残部から判断して五百人以上の方が来場されたと思われる。今後も地元の皆様の期待にお応えできるような公開の展示等を行なっていきたい。(事務局海野記)

## 【研究例会】

日時 平成二十三年十二月十五日(木) 十六時半～十八時

場所 仏教文化研究所共同研究室(六号館二階)

発表者 高橋晃一 所員「仏教学と電子辞書の現在」

橋本弘道所員「総持学園の歴史と仏教教育～光華女学校以来の仏教教育について～」

## 【第四回 運営委員会】

日時 平成二十四年二月九日(木) 十二時三十分～十三時

場所 仏教文化研究所共同研究室(六号館二階)

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、

小林恭治所員、伊藤正義所員、加藤寛研究員、下室寛道所員、宗基秀明所員、星野玲子所員、橋本弘道所員

## 議題

### 一、審議事項

① 仏教文化研究所主任の人事について

② その他

### 二、報告事項

① 印度学仏教学会第六十三回学術大会開催の準備体制について

② その他

【第五回 運営委員会】

日時 平成二十四年三月八日（木） 十二時二十分～十三時三十分

場所 仏教文化研究所共同研究室（六号館二階）

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、

小林恭治所員、下室寛道所員、前田伸子所員、小林馨所員、関根透所員、星野玲子所員、橋本弘道所員

議題

一、審議事項

①平成二十四年度公開シンポジウムのテーマ等について

②仏教文化研究所所員について

③その他

二、報告事項

①平成二十四年度予算について

②『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十七号刊行の進捗状況について

③平成二十三年度購入図書について

④歯学部「宗教学」講義担当について

⑤印度学仏教学会第六十三回学術大会大会本部の体制について

⑥その他

平成二十三年度

## 仏教文化研究所概要

〔所在地〕 〒230 | 8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見二―一―三 鶴見大学内

TEL ○四五―五八一―一〇〇一

FAX ○四五―五八一―一三九一

〔所 長〕 木村 清孝 鶴見大学学長（哲学）

〔主 任〕 矢島 道彦 短期大学教授（宗教学）

〔専任研究員〕 池 麗梅 仏教文化研究所准教授（仏教学）

〔兼任研究員〕 前田 伸子 鶴見大学副学長（細菌学）

河野 眞知郎 文学部教授（考古学）

石田 千尋 文学部教授（歴史学）

岩橋 春樹 文学部教授（美学・美術史）

小林 恭治 文学部教授（日本語学）

伊藤 正義 文学部教授（文化財学）

加藤 寛 文学部教授（文化財学）

田口 暢穂 文学部教授（中国文学）

小林 馨 歯学部教授（歯科放射線学）



〔顧問〕

- 関根 透 歯学部特任教授（倫理学）  
宗墓 秀明 文学部准教授（歴史学）  
下室 覚道 文学部准教授（宗教学）  
橋本 弘道 短期大学部講師（宗教学・教育学）  
星野 玲子 文学部講師（文化財科学）  
永田 勝久 本学名誉教授（文化財科学）  
佐藤 達全 短期大学部非常勤講師（仏教保育）  
計良 隆世 短期大学部非常勤講師（印度哲学）  
尾崎 正善 文学部非常勤講師（宗教学）  
斎藤 明 東京大学教授（印度哲学）  
丘山 新 東京大学東洋文化研究所教授（仏教学）  
蓑輪 顕量 東京大学教授（仏教学）  
高橋 晃一 東京大学特任研究員（仏教学）  
古瀬 珠水（日本仏教）  
高崎 直道 本学名誉教授（宗教学）  
納富 常天 元大本山總持寺宝物殿館長（宗教学）  
柳澤 慧二 本学名誉教授（生理学）

# 鶴見大学仏教文化研究所規程

## (設置)

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

## (目的)

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

## (研究内容等)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行う。

- (一) 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究等の基本的研究
- (二) 鶴見大学及び鶴見大学短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究
- (三) 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究
- (四) 研究会、講演会及び公開講座等の開催
- (五) 研究所の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行
- (六) その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

## (研究部門)

第四条 研究所に、次の三研究部門を置く。

(一) 仏教学研究部門

(二) 仏教教育研究部門

(三) 仏教文化財研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(主任)

第六条 研究所の主任は、研究所の所員のうちから、所長が委嘱する。

(所員)

第七条 研究所に、次の所員を置く。

(一) 専任研究員

(二) 兼任研究員

(三) 顧問

二 兼任研究員・顧問には、給与は支給しない。

(専任研究員)

第八条 専任研究員の任用については、別に定める。

(兼任研究員)

第九条 兼任研究員については、次の研究員を置き、所長が委嘱する。

(一) 鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員

(二) 鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員以外の者

二 鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員以外の者は任期を一年とし、更新することができる。

(顧問)

第一〇条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(職員)

第十一条 研究所の職員(教員を除く。以下この項において同じ。)は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(運営委員会)

第十二条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第十三条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他寄附金等をもってこれに充てる。

(事務の所管)

第十四条 この規程に関する事務は、研究所事務室が所管する。

(規程の改廃)

第十五条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、行うものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成十一年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成二十年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成二十一年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成二十二年四月一日から施行する。

# 鶴見大学仏教文化研究所専任研究員任用規程

## (目的)

第一条 この規程は、鶴見大学仏教文化研究所規程第八条により鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）における専任研究員の任用に関する必要な事項を定めることを目的とする。

## (職位)

第二条 専任研究員の職位は、教授、准教授、講師及び助教とする。

二 教授とすることができる者は、次の各号のいずれかを満たすことを必要とする。

(一) 大学教授としての経歴を有し、かつ研究上の業績及び教育上の識見があると認められるもの。

(二) 准教授として相応な経歴を有し、かつ研究上の業績及び教育上の識見があると認められるもの。

三 准教授とすることができる者は、次の各号のいずれかを満たすことを必要とする。

(一) 大学教授としての経歴を有し、かつ研究上の業績及び教育上の識見があると認められるもの。

(二) 講師として相応な経歴を有し、かつ研究上の業績及び教育上の識見があると認められるもの。

(三) 前各号の該当者と同等以上の学識・経歴・業績があると認められるもので、博士の学位を有するもの。

四 講師とすることができる者は、次の各号のいずれかを満たすことを必要とする。

(一) 前各号の該当者と同等以上の学識・経歴・業績があると認められるもので、修士の学位を有するもの。

(二) 大学講師としての経歴を有し、かつ研究上の業績及び教育上の識見があると認められるもの。

(三) 助教として相応な経歴を有し、かつ研究上の業績及び教育上の識見があると認められるもの。

五 助教となることができる者は、次の各号のいずれかを満たすことを必要とする。

(一) 修士の学位を有し、研究上の業績を有するもの。

(二) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められるもの。

(選考結果の上申)

第三条 専任研究員の選考は、一般公募とし、運営委員会の議を経て、研究所長が当該候補者を学長に上申する。

二 なお選考方法は、書類選考及び面接とする。

(申請)

第四条 専任研究員を希望する研究者は、原則として次に掲げる書類をもって研究所に申請するものとする。

(一) 履歴書

(二) 研究業績一覧

(三) 著書・論文

(四) その他選考に必要な書類

(職務)

第五条 専任研究員は、鶴見大学仏教文化研究所規程第三条（研究内容等）に定める研究・調査活動、その他、研究所の活動に必要な業務を行うものとする。

(勤務・待遇等)

第六条 専任研究員の勤務・待遇等は、鶴見大学職員就業規則によるものとする。

(研究費)

第七条 専任研究員には、研究費を支給することがある。

二 支給額は別に定める。

(諸規程等の遵守)

第八条 専任研究員は、研究等に従事するに当たり、本学の諸規程等を遵守しなければならない。

(規程の改廃)

第九条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経た後、学長の承認を得て行うものとする。

#### 附 則

この規程は、平成二十二年四月一日から施行する。

#### 附 則

この改正規程は、平成二十三年四月一日から施行する。



平成二十二年度  
仏教文化研究所購入図書・資料

1. 一般図書

- 『インド仏教思想史』、S・ラーダークリシュナン著、三枝充恵、羽矢辰夫訳、大蔵出版、二〇〇四年
- 『インド仏教変移論…なぜ仏教は多様化したのか』、佐々木閑著、大蔵出版、二〇〇〇年
- 『インド文化と仏教思想の基調と展開…佐藤良純教授古稀記念論文集』(二冊)、佐藤良純教授古稀記念論文集刊行会編、山喜房佛書林、二〇〇三年
- 『永平道元禪師學道用心集(全)』、山喜房佛書林、一九七四年
- 『華嚴學研究資料集成』(東洋文化研究所叢刊第一輯)、鎌田茂雄著、大蔵出版、一九九三年
- 『華嚴學論集』、鎌田茂雄博士古稀記念会編、大蔵出版、一九九七年
- 『ゴータマ・ブツダ…縁起という「苦の生滅システム」の源泉』(構築された仏教思想)、並川孝儀著、佼成出版社、二〇一〇年
- 『ゴータマ・ブツダ考』、並川孝儀著、大蔵出版、二〇〇五年
- 『高麗佛畫大展』、韓国国立中央博物館、二〇一〇年
- 『金剛般若經の研究』、渡辺章悟著、山喜房佛書林、二〇〇九年
- 『ざとりへの遍歴…華嚴經入法界品』(上・下)、丹治昭義ほか訳、中央公論社、一九九四年
- 『獅子吼』、石川素童著、松榮社書店
- 『儒・佛・道三教思想論攷』、牧尾良海博士喜寿記念、牧尾良海博士喜寿記念論集刊行会編、山喜房佛書林、一九九一年
- 『浄土教の思想と歴史…丸山博正教授古稀記念論集』、大正大学浄土学研究会編、山喜房佛書林、二〇〇五年

- 『正法眼藏隨聞記新校註解』、道元述、大久保道舟校註、山喜房佛書林、一九四二年
- 『勝呂信靜博士古稀記念論文集』、勝呂信靜博士古稀記念論文集刊行會編、山喜房佛書林、一九九六年
- 『真宗重宝聚英』(全十卷)、信仰の造形的表現研究委員會編、同朋舎メディアプラン、二〇〇六～二〇〇七年
- 『新発見白隱自筆自伝書』、木村俊彦編、山喜房佛書林、二〇〇〇年
- 『親鸞・救済原理としての絶対他力』(構築された仏教思想)、釈徹宗著、佼成出版社、二〇一〇年
- 『隋唐五代石刻文獻全編』(全四冊)、國家圖書館善本金石組編、北京圖書館出版社、二〇〇三年
- 『浙江江西地方禪宗史蹟訪録』、鈴木哲雄著、山喜房佛書林、一九九七年
- 『禪学研究入門』(第二版)、田中良昭編、大東出版社、二〇〇六年
- 『禪籍看読の要領』山雲海月・通幻語録を講本として、中嶋仁道著、山喜房佛書林、一九八〇年
- 『全唐文新編』(全三十二卷)、周紹良主編、吉林文史出版社、二〇〇〇年
- 『禪の傳承と發達』、齊藤信義著、山喜房佛書林、二〇一〇年
- 『宋初期臨濟宗の研究』、鄭夙雯著、山喜房佛書林、二〇〇六年
- 『宋代思想の研究』、儒教・道教・仏教をめぐる考察(關西大學東西學術研究所研究叢刊)、吾妻重三著、關西大學出版部、二〇〇九年
- 『宋代天台教学の研究』、『金光明經』の研究史を中心として、林鳴宇著、山喜房佛書林、二〇〇三年
- 『宋代仏教の研究』、元照の浄土教、佐藤成順著、山喜房佛書林、二〇〇二年
- 『大乘戒經の研究』、大野法道著、山喜房佛書林、一九六三年
- 『大乘止観法門』の研究、松田未亮著、山喜房佛書林、二〇〇四年
- 『大乘の修観形成史研究』、村中祐生著、山喜房佛書林、一九九八年
- 『大藏経・成立と変遷』、大藏会編、百華苑、一九六四年

- 『大智度論』の作者とその翻訳、印順述意、昭慧整理、岩城英規翻訳、正観出版社、一九九三年
- 『大本山總持寺御由来抄』、石川素童著、大本山總持寺東京出張所、一九〇〇年
- 『台密思想形成の研究』、水上文義著、春秋社、二〇〇八年
- 『チベット仏教哲学』、松本史朗著、大蔵出版、一九九七年
- 『中国禪宗史論考』、鈴木哲雄著、山喜房佛書林、一九九九年
- 『中國碑刻全集』（全六巻）、中國碑刻全集編輯委員會編、人民美術出版社、二〇一〇年
- 『中国仏教研究入門』、岡部和雄・田中良昭編、大蔵出版、二〇〇六年
- 『中国仏教思想史の研究』、佐藤成順著、山喜房佛書林、一九八五年
- 『中国仏教の批判的研究』、伊藤隆寿著、大蔵出版、一九九二年
- 『中世鎌倉美術館・新たな美的意義をもとめて』、岩橋春樹著、有隣堂、二〇〇九年
- 『伝光録物語・伝光録参究の手引』、永久岳水著、鴻盟社、一九六五
- 『天台思想と東アジア文化の研究』、塩入良道先生追悼論文集、塩入良道先生追悼論文集刊行会編集、山喜房佛書林、一九九一年
- 『天台小止観の譯註研究』、大野栄人・伊藤光壽・武藤明範著、山喜房佛書林、二〇〇四年
- 『天台入唐人宋僧の事跡研究』、齊藤圓眞著、山喜房佛書林、二〇〇六年
- 『天台法華宗の研究』、村中祐生著、山喜房佛書林、二〇〇五年
- 『天台本覚思想と日蓮教学』、花野充道著、山喜房佛書林、二〇一〇年
- 『天台六妙法門の研究』、大野栄人・伊藤光壽著、山喜房佛書林、二〇〇四年
- 『道元・瑩山現代法話実践講座』、池田魯參監修、四季社、二〇〇一年
- 『道元禪の研究』、新本豊三著、山喜房佛書林、一九九三年

- 『道元禪の世界』（二巻）、田中晃著、山喜房佛書林、一九八九～一九九三年
- 『唐五代禪宗史』、鈴木哲雄著、山喜房佛書林、一九八五年
- 『唐代天台学研究・湛然の教学に関する考察』、日比宣正著、山喜房佛書林、一九七五年
- 『唐中期の浄土教』、塚本善隆著、法蔵館、一九七五年
- 『遠羅天釜・夜船閑話』、白隠禪師著、足立大進校訂、改版、山喜房佛書林、一九七七年
- 『渡海天台僧の史的研究』、齊藤圓眞著、山喜房佛書林、二〇一〇年
- 『敦煌禪宗文献の研究』（二巻）、田中良昭著、大東出版社、一九八三年
- 『敦煌本「楞嚴經」の研究』、崔昌植（法慧）著、山喜房佛書林、二〇〇五年
- 『南北朝遺文』（九州編第一巻～東北編第一巻）、東京堂出版、一九八〇年
- 『日本・中国仏教思想とその展開』、三崎良周編、山喜房佛書林、一九九二年
- 『日本中世禪林の儒学』、久須本文雄著、山喜房佛書林、一九九二年
- 『念佛三昧寶王論の研究』（大正大学総合仏教研究所叢書第二二巻）、大正大学総合仏教研究所唐中期仏教思想研究会編著、ノンブル社、二〇〇九年
- 『般若波羅蜜多思想論集』、真野龍海博士頌寿記念論文集、真野龍海博士頌寿記念論文集刊行会編、山喜房佛書林、一九九二年
- 『般若心経』成立史論・大乘仏教と密教の交差路』、原田和宗著、大蔵出版、二〇一〇年
- 『般若波羅蜜多の研究』、真野龍海著、山喜房佛書林、一九九二年
- 『批判仏教』、袴谷憲昭著、大蔵出版、一九九〇年
- 『仏教文化の諸相』、高木紳元博士古稀記念論集』、高野山大学仏教学研究室編、山喜房佛書林、二〇〇〇年
- 『仏教学仏教史論集』、佐々木孝憲博士古稀記念論集』、佐々木孝憲博士古稀記念論文集刊行会編、山喜房佛書林、二〇〇二年

- 『佛敎教理思想の研究・佐藤隆賢博士古稀記念論文集』、佐藤隆賢博士古稀記念論文集刊行会編集、山喜房佛書林、一九九八年
- 『仏敎研究入門』、平川彰編、大蔵出版、一九八四年
- 『仏敎思想の受容と展開・宮林昭彦教授古稀記念論文集』、宮林昭彦教授古稀記念論文集刊行会編集、山喜房佛書林、二〇〇四年
- 『仏敎思想論』(上)、松本史朗著、大蔵出版、二〇〇四年
- 『仏敎とは何か・宗敎哲学からの問いかけ』、上田閑照・氣多雅子編、昭和堂、二〇一〇年
- 『佛敎文化學論集・前田惠學博士頌寿記念』、前田惠學博士頌寿記念会編、山喜房佛書林、一九九一年
- 『仏敎文化の諸相・坂輪宣敬博士古稀記念論文集』、坂輪宣敬博士古稀記念論文集刊行会編集、山喜房佛書林、二〇〇八年
- 『仏敎文化の展開・大久保良順先生傘寿記念論文集』、大久保良順先生傘寿記念論文集刊行会編、山喜房佛書林、一九九四年
- 『仏性思想の展開・吉蔵を中心とした『法華論』受容史』、奥野光賢著、大蔵出版、二〇〇二年
- 『仏敎と文化・多田孝正博士古稀記念論集』、多田孝正博士古稀記念論集刊行会編集、山喜房佛書林、二〇〇八年
- 『碧巖録提唱』、朝比奈宗源提唱、足立大進編、山喜房佛書林、一九九六年
- 『法語・歌頌等』(道元禪師全集・原文対照現代語訳)第十七卷)、高橋文二・角田泰隆・石井清純訳註、春秋社、二〇一〇年
- 『法蔵・「二即一切」という法界縁起』(構築された仏敎思想)、吉津亘英著、俊成出版社、二〇一〇年
- 『法然浄土敎の思想と伝歴・阿川文正教授古稀記念論集』、大正大学浄土学研究会編、山喜房佛書林、二〇一一年
- 『法華義記』(法華経注釈書集成二)、菅野博史訳注、大蔵出版、一九九六年
- 『法華経と大乘經典の研究』、望月海淑編、山喜房佛書林、二〇〇六年
- 『法華経思想論』、松本史朗著、大蔵出版、二〇一〇年
- 『法華統略』(法華経注釈書集成六・七)、菅野博史訳注、大蔵出版、一九九八〜二〇〇〇年
- 『梵語佛敎文献の研究』、大正大学総合佛敎研究所声聞地研究会・密敎聖典研究会編、山喜房佛書林、一九九五年

- 『インド論理学研究一』松本史朗教授還暦記念号、松本史朗ほか編集、インド論理学研究会、二〇一〇年
- 『唯識文献研究』袴谷憲昭著、大蔵出版、二〇〇八年
- 『唯識説を中心とした初期華嚴教学の研究』智儼・義湘から法蔵へ、大竹晋著、大蔵出版、二〇〇七年
- 『龍樹』あるように見えても「空」という（構築された仏教思想）、石飛道子著、佼成出版社、二〇一〇年
- 『龍樹教学の研究』壬生台舜編、大蔵出版、一九八三年
- 『英訳永平大清規』横井雄峯訳、山喜房佛書林、一九七三年
- 『参天台五臺山記』齊藤圓眞訳注、山喜房佛書林、一九九七年
- The Eihei-koroku*, Yūho Yokoi, Sankibo Buddhist Book-store, 1987.
- The first step to Dogen's Zen: Shobogenzo-zuimonki*, Yūho Yokoi, Sankibo, 1972.
- The textual study of the Chinese versions of the Saddharmapundarikasūtra in the light of the Sanskrit and Tibetan versions*, Seishi Karashima, Sankibo Press, Bibliotheca Indologica et Buddhologica vol. 3.
- Jikaku daishi den* 慈覚大師伝: *The biography of Jikaku daishi Ennin*, translated and explanatory notes: Enshin Saitō, Sankibo Bussorin, 1992.

## 2. 参考図書

- 『一切経解題辞典』、鎌田茂雄総監修、大東出版社、二〇〇二年
- 『岩波哲学・思想事典』、廣松渉ほか編、岩波書店、一九九八年
- 『印度佛教固有名詞辞典』、赤沼智善編、法蔵館、一九六七年
- 『エリアーデ仏教事典』、木村清孝・末木文美士・竹村牧男編訳、法蔵館、二〇〇五年
- 『空海要語辞典』、福田亮成著、山喜房佛書林、一九九八年

- 『くずし字用例辞典』、児玉幸多編、東京堂出版、一九九三年
- 『現代語訳法華辞典』、日宗十万人団結報恩会編、山喜房佛書林、二〇〇一年
- 『現代世界宗教事典…新宗教・セクト・代替スピリチュアリテイ』、クリストファー・パートリッジ編著、井上順孝ほか訳、悠書館、二〇〇九年
- 『知っておきたい名僧のことば事典』、中尾堯・今井雅晴編、吉川弘文館、二〇一〇年
- 『宗教学事典』、星野英紀ほか編、丸善、二〇一〇年
- 『宗教学辞典』、小口偉一・堀一郎監修、東京大学出版会、一九七三年
- 『宗教学文献事典』、島園進ほか編、弘文堂、二〇〇七年
- 『浄土宗大年表』、藤本了泰著、玉山成元編・修訂、山喜房佛書林、一九九四年
- 『禪の思想辞典』、田上太秀・石井修道編著、東京書籍、二〇〇八年
- 『大蔵経全解説大事典』、鎌田茂雄ほか編、雄山閣出版、一九九八年
- 『大正新脩大蔵経総目録』、大蔵出版編集部編、大蔵出版、二〇〇七年
- 『中国思想文化事典』、溝口雄三・丸山松幸・池田知久編、東京大学出版会、二〇〇一年
- 『中国主要地名辞典…隋・宋金』、鈴木哲雄著、山喜房佛書林、二〇〇三年
- 『中国禅宗人名索引』、鈴木哲雄編、其弘堂、一九七五年
- 『中国禅宗寺名山辞典』、鈴木哲雄著、山喜房佛書林、二〇〇六年
- 『難字・異体字典』、有賀要延編、国書刊行会、一九八七年
- 『日英禪語辭典』、横井雄峯著、山喜房佛書林、一九九一年
- 『日本女性史大辞典』、金子幸子ほか編、吉川弘文館、二〇〇八年

『日本仏教史年表』（論集日本仏教史一〇）、平岡定海・圭室文雄・池田英俊編、雄山閣出版、一九九九年

『パリー語佛教辞典』、雲井昭善著、山喜房佛書林、二〇〇八年

『パリー語辞典』、水野弘元著、春秋社、二〇〇五年

『パリー仏教辞典』、村上真完・及川真介著、春秋社、二〇〇九年

『仏教学辞典』、多屋頼俊・横超慧日・舟橋一哉編集、法藏館、一九九五年

『仏教語読み方辞典』、有賀要延編著、国書刊行会、一九九一年

『仏像レファレンス事典』、日外アソシエーツ株式会社編集、二〇〇九年

『梵字手帖』、徳山暉純著、木耳社、二〇〇九年

*A glossary of Zen terms*, 稲垣久雄著、永田文昌堂、一九九一年

*The Soka Gakkai dictionary of Buddhism, The English Buddhist Dictionary Committee, Soka Gakkai, 2002.*

### 3. その他の資料

曹洞宗大本山絵はがき、一組（十枚）、九・一×十四・二纏

東洋第一大遊園地鶴見花月園名所絵はがき、一組（七枚）、九・一×十四・一纏

横浜名所鶴見花月園絵はがき、一組（五枚）、九・一×十四纏

大本山総持寺絵はがき、一組（五枚）、九・一×十四纏

諸嶽山絵はがき、一組（十枚）、九・一×十四・一纏

大本山總持寺全景繪葉書、一組（九枚）、九×十四纏

鶴見名所全景絵はがき、一組（六枚）、白黒、十四×九・二纏



二祖峩山禪師五百五十回大遠忌記念はがき、一組（六枚）、八・九×十三・九纏  
勅使門前青銅大燈籠繪葉書、一組（二枚）、九×十四・一纏  
曹洞宗大本山絵はがき、一組（三枚）、九・二×十四・二纏  
総持寺古写真、七枚

## 鶴見大学仏教文化研究所紀要投稿規程

一 鶴見大学仏教文化研究所紀要（以下「紀要」という。）は、鶴見大学（以下「大学」という。）及び鶴見大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）において研究又は教育に従事する者の研究業績を内外に発表することを目的とする。

二 紀要に投稿できる者は、原則として、大学及び短期大学部において研究又は教育に従事する者及びこれと共同で研究に従事する者と、仏教文化研究所主催による公開講演会・シンポジウムの講師とする。

三 投稿される論文は、未刊行のものに限る。定期刊行物（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など）や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中の論文は本紀要に投稿できない。但し、学会発表抄録や科学研究費などの研究報告書はその限りではない。

四 投稿する者は、紀要刊行内規で定められた投稿要領に従って原稿を作成する。

五 本紀要に掲載された論文の公衆送信権は、鶴見大学に属する。

### 附 則

この規程は、平成十八年四月二十日から施行する。